



橋の名称紹介

橋は、自動車などの荷重を直接支持する部分（一般に「桁」と称する部分）を上部構造、上部構造を支え、支持地盤に荷重を伝える部分（橋脚および橋台）を下部構造と呼びます。

上部構造を構成する主な部分には、床版、主桁、横桁があり、付属物として支承、落橋防止装置、伸縮継手（目地）、高欄、防護柵、排水設備、照明設備、点検設備があります。

床版は自動車や列車を直接支持する部分で、主桁および横桁は床版を支持する役目をするものです。PC橋では、主桁の一部が床版を兼ねているのが一般的です。

上部構造の伸縮など、変形を円滑に機能させる目的で下部構造との間に設けるものに支承があります。支承は沓（シュー）※とも呼ばれ、上部構造か

らの荷重をスムーズに下部構造に伝える重要な部分で、鋼製・ゴム製があります。

※ 「くつ」という意味をもつ「沓」という漢字が、橋の業界用語として「くつ」→「shoe」→「シュー」と呼ぶようになったからだと言われている。

● 橋の主要寸法を表す用語

「橋長」は両端にある橋台のパラペット（胸壁）前面の距離、「桁長」は目地を含まない桁の実長、「支間長」とは支承中心間の距離、「径間長」は橋台または橋脚の前面間の距離を意味します。また橋の幅を表す用語に「有効幅員」、「全幅員」があり、有効幅員は自動車・歩行者が有効的に使用する幅を、全幅員は地覆・高欄などの防護設備を含めた橋全体の幅を意味します。

